

King Gnuの秘密 ～アーティストの個性はどこに～

音楽班:佐藤 颯、古谷 幹太、中島 悠希

Abstract

The purpose of this study is to discover what parts of a song express King Gnu's "uniqueness". Though we were able to discover characteristics that are not often seen in other artists, it is difficult to pinpoint a single component of a song that is related to their "uniqueness", and this study concludes that every part of a song gives rise to the artist's individuality.

要約

本研究の目的は、King Gnu”らしさ”が楽曲においてどのような部分から表れているのかを発見することである。4つの項目に分け調査を進める中で、他のアーティストにはあまり見られない特徴を発見することができたが、”らしさ”に関わる曲の構成要素の一つに定めることは難しく、楽曲のあらゆる部分がアーティストの個性を生んでいるということが結論付けられた。

1. はじめに

アーティストの個性が楽曲においてどのような要素から表れるのかを調査することで、人々が自分自身の好きなアーティストを見つけることに役立てたり、作曲における表現力を磨く事ができるのではないかと考えた。

2. 研究手法

4人組アーティスト”King Gnu”の楽曲、42曲を4つの観点から調査を行い、同じジャンルの他アーティストにはあまり見られない特徴を見つける。ここではKing Gnuが属する音楽ジャンルを「J-ROCK (邦ロック)」とする。

《実験》

- ①スケール、コード進行について調査を行う
- ②歌詞の特徴について詳しく調査を行う
- ③使用楽器の音色について調査を行う
- ④ビートの特徴について調査を行う

3. 結果

楽曲の特徴として得られた結果は以下のとおりである

- ①・エオリアンスケールが多い
 - ・マイナーコードをメジャーコードに変えるという印象的なダイアトニックコードの使い方が多用されている(例:「Sorrows」「Overflow」)
- ②・相手に投げかけるような語尾の歌詞が多い
(例:「サマーレイン・ダイバー」より ”最後の夜だろ”
「ロウラヴ」より ”居場所はここにしかないでしょ?”
「あなたは蜃気楼」より ”偽善か?”
「Vinyl」より ”薪をくべろ” ”誰に向けたナイフなの?”)
 - ・一人称が少ない(42曲のうち30曲は一人称が使われていなかった)
- ③〈ギター〉
 - ・アーミングやワウペダルを用いた奏法が多用されている
 - 〈キーボード〉
 - ・トランペットなどのブラス系やグロッケン、ストリングスの音色が使われている

- ④・独特な跳ね具合をもつスウィングビートが見られる
(例:「小さな惑星」「白日」「どろん」「McDonald Romance」)
- ・変拍子を利用したビートが多い
(例:「Sorrows」「ロウラヴ」「ねっこ」「Vinyl」)

4. 考察

使用されるスケールは楽曲全体のイメージ・雰囲気を作る大きな役割を持っていると考えられる。マイナー系スケールが多用されるKing Gnuの楽曲では複雑でクラシカルな印象があるが、実験結果①のようにダイアトニックコードとして現れるメジャーコードによって”ワクワク感””期待感”といったギャップが生まれている。さらに歌詞はアーティストのメッセージ性が最も表れている部分であると考えた。また、ギターによる独特な奏法やキーボードによるブラスやグロッケン音はアクセントのような役割を果たし、ビートはグルーブ感を形成しているのではないだろうか。

5. 結論

楽曲に隠れる様々な特徴を発見することができたが、”らしさ”に関わる要素を一つに定めることは難しく、楽曲のあらゆる部分がアーティストの個性を生んでいるということが結論付けられた。今後は調査で得られた結果を活かして実際に作曲し、”らしさ”を再現することが可能であるのか調査していきたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

宮丸友輔、江村伯夫、山田真司、”ポピュラー音楽のドラムス演奏におけるグルーブの研究”
日本音響学会誌 73巻 10号(2017)、pp. 625-637